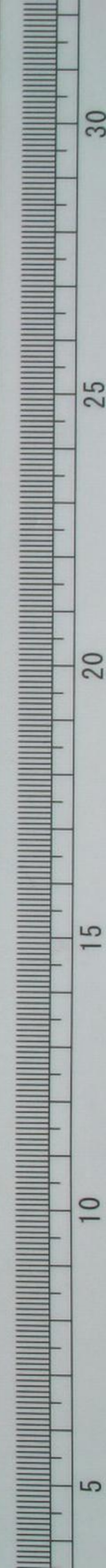


春病漫筆

昭和十六年四月下院

九

特別
14
1919
510



の夏は家相や干支からさすまの迷信も一向に執着しないが
迷信の多い運業と云ふは三鄰のあひこと今始りわつた。此の
三鄰の言は運業をよるとも怪我かたるとも大工は今十
む北を避けるといふがコンヤは今の荒いよ、全知わつた
といふのん、家相や干支の大陰暦も不甲斐の白の

心

馬を引く

あつてもはたしむるなりせば何にかん病癒のよし
村田信之

来て見ゆはよくしむ低く中士の山嶽もれあふかくや
まゝ

河井徳三の

身も指拂の中へ投げた下千丈の家は埋うしり以後の心
に死すんば共に天下の任給を徳三のまゝ道義道徳も
まゝ

三浦板垣

名聞はくまき某の極く、とくともさみと云くせんは用ひか

榎原製

ハ、少い書と読めは少いそあ真し、然し書とよまは路村
の書真し、こまらぬ書、

名聞は置所ふとも善悪あふ、福のなす、白井の先き悪

河井白石

大丈夫生きて封侯を得んは、死して名をいぬるは、

名

〇馬の逸業を言ひれば、極く名をいぬるは、

驚馬可致千里耶、曰可、何以知其可也、吾聞之昔
州文曰、駿驥一日而千里、驚馬十駕、則亦及之矣、使
昔師主人耶、昔師之非妄人耶、則必不欺欺後人也、然

の老人とては遠が落つる。後人ゆゑも堅いものからいふ。木成や浮
尾まがかりくから人をもる。と美し。蝶舞。遠が落つる。凡
の行をたると遠ぢふ。人間は遠の。野ふん。とる。一徴。年
齡。遠。伴つてまの。と。遠。は。後。人。の
る。か。取。も。今。と。一。般。名。を。祝。福。も。合。ひ。あ。う。支。那。の。七。十。二。年。と。て
王。侯。か。く。遠。杖。を。賜。つ。れ。と。ま。を。北。頃。或。る。書。を。見。せ。初。め。て。如。の
北。自。分。は。上。野。の。遠。か。る。か。と。ま。の。入。遠。を。一。ま。の。常。つ。て。或。四。か。一。取
遠。を。や。つ。れ。と。ま。の。御。座。の。下。生。れ。止。遠。科。遠。か。る。か。い。つ。七。帰。存
こと。北。歸。の。遠。を。取。去。つ。て。昔。の。れ。或。る。時。の。身。代。の。あ。り。に。は。る。と。汽。車
中。に。抜。い。て。昔。の。つ。れ。と。ま。の。あ。る。か。の。人。の。身。代。の。あ。り。か。つ。て。昔。は
い。つ。も。御。座。に。泊。つ。る。あ。り。止。遠。を。授。か。せ。る。と。ま。の。数。年。例。と。ま。の。あ。り
か。ま。の。授。け。心。を。止。遠。か。あ。り。と。あ。り。と。笑。ふ。と。れ。と。ま。の。あ。り。と。

伊木利意大宛名パンカール	三百圓
竹島白磁茶洗	千五百圓
楳木兜香煙	百五十圓
黄銅塔形香炉、古銅音	百圓
竹島急須及茶釜等	百二十圓
唐墨三口	百圓
聖武帝百壽塔	百圓
以兰島七女口馬馬婦人	百圓
鍍金任角大ふし草在鉢	百圓
茶摺鉢	百五十圓
久保内信田中師出玩具三若	百圓
木彫海老七草山依	百三十圓

標原製

蓮式密陀鉢 百二十圓

小佛像三十三上依あみ入 百五十圓

西洋珠三尊三十七點 百圓

相違り三尊三十七點 百圓

此の五十四回任る受人のころ為數十點有る大休買つた時の價
 二比ふん十條ある

（此の五十四回任る受人のころ為數十點有る大休買つた時の價
 二比ふん十條ある）

平山堂の語る書に據れば斯く多数の印の出れば今と云ふ如く
 ことより何人の買入かといふ事は此記部業記りの伝説に
 一なる名井氏よりいふこと此人同く味味ある或は他の移り
 印もいふ此印の内より余が家祖兼いふもの印も
 余の印も交り存んといふは一旦平山堂に合部引渡り
 了後いふたより其數二万點と云ふ

- ・洋人バルトリーク正花瓶と抹茶碗
- ・前原一誠造作硯
- ・大河内牛吉蝶の杯大隈侯遺物
- ・神代土器
- ・朝鮮文花瓶
- ・刀剣表干
- ・四重登壇由池印梅印
- ・一大形くよの文局 一聖徳太子智恵の海鏡香合
- ・双魚の文局 一カラモノ作の文局
- ・日陶茶碗
- ・一銀外十四回四十五箱
- ・羅漢鈕香山印三歌
- ・一雲錦二扶の横尾大徳造付田記
- ・一浪越心敷鈕筒印
- ・一僧之分刻りの茶碗
- ・一鶴追石歌分刻瓦印百顆
- ・一短冊二 一懐中俵物 五入
- ・一牙印二 墓山人居子人形杖の印 一人世牙本館市代

散り出す

外の及び小品数百顆あり

藤原製

余の先後家之傳へべきものと小玉持三箇又合置してこれの志は
 番匠の二字が縁ともあることには家寶を意味するともあること
 言書や書出や書物も家の印係あることと云ふことと云ふこと
 ありともあること 他人の手を承継するともあること 家の印係難い
 ことと云ふこと 家記や家系や傳歴に關するもの書物皆此の三
 箇をわづらひ納めてある

類の類又家の保存を要するものあり

壬生卿の美鏡の二字類々實に先師の御物あり

米倉の伝候書 五峯の小物之類

紅白の山分 山分二書

此數點の皆家之關するもの故に是を印と云ふ

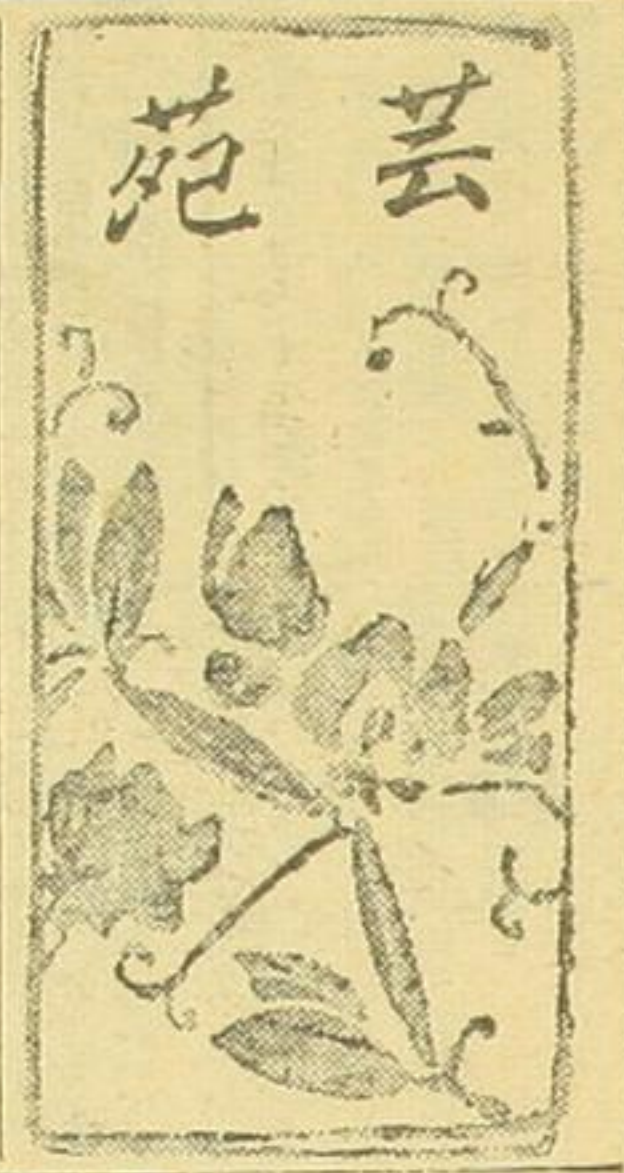
お南に書かれたことを思い出さず得所遺稿一冊を著しあり

家名に三條あり自らの姓は竹と豆本三冊あり、泰山秋翁の書は九寸半
版に肉易や清直を細く白字にし、字はあつたが、印のりは去きりし人
で遊ばすつれを遺稿と題する。自分の豆本は名を三條秋翁とせしむるの
先蹤は微つた程にみえ、或は「三條」の哀其の感心があるなりと、人々も
て驚かす。

○秋翁の遺稿は、其の書は脱字ありと、其の字はハと確りあるは、
併来公記をあるまじく、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、
の一字をアとせしむるは、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、
四生は其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、
倍の倍は其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、
上は其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、

標原歌

柱は其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、
の歌集を漢人の、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、



柳眼を讀む

市嶋 春城

二三日病臥中舟崎詩妓の歌中の疑問、或は時事に關つての
奥一柳眼一枕頭に落ち來り一氣 曉時等々歌で技巧を弄するもの
に讀過、遂からぬ感興を覺えた とてはなげ松崎肝より進り出で
若生和歌には全然門外漢なれど たる結晶にて涙あり情あり死が
も眞情流露の作はいかで人を離ら 對座口づからいはんとすると
かさすして已むべき、巻中の柳 ころを聴くの感ありといふは誠
歌の内中の極み、亡妹に對す し當らず、和歌ならでは聴き得
る悲哀、既家の友人に對する感 ざり情思を率直にぶちまけたる
眼、己れ嫁せざるの痛、老ひゆ ところに嬌があるといふべく。
とまに對する情眼、或ひは旅 どの和歌にも際更らしい處がな

く直ちに眞情を感つて三十一字
となしたところに楚々人を眺か
すの妙がある
和歌は春秋歌に發するものが
自然の本色で時代時代に其時を
あらはし其情をあらはすが本
來の面目であるのに誤つて專門
家が種々の規則を設け用語まで
も眼し難辨の間に古い軌道を
行くにあらすんば和歌にあらず
となせる如きは今の新體歌から
見ても排斥を要する際處でこれ
を打破するでなければ何人の眞
情も、あらはし得ざることこの
道の極みであつたが「柳眼」に
あらはるゝ諸作は皆新體歌によ
りたる素直なる自然の歌であ
らぬが和歌に理解のない自分の
最も秘藏する所である才氣を
家庭に有たるゝ御兩親を美しく
思はざるを得ない

異説を書いてゐる人があつた
勿論佳句の多くは説ひある
○秋翁の遺稿は、其の書は脱字ありと、其の字はハと確りあるは、
併来公記をあるまじく、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、
の一字をアとせしむるは、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、
四生は其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、
倍の倍は其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、
上は其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、其の字はハと確りあるは、

七印人傳又叔母の○七といふは、田田祖堂の何れか人より交りたるが二三
の印刻をえん名主である、自か、流和亭かお中のため、高し江敏
叔の傳も有る、そのが、父の伝を、以てのい、すへて見れ、と思ふ、
と燈臺と時、心、其、角子の高の、父、角名、母、か、想、を、角、
角、の、歌、ん、と、た、と、受、入、れ、の、大、江、丸、の、伝、傳、代、家、の、自、合、か、云、い、ん、と、す
る、句、が、二、首、ある、

お花は見えぬ〜こ〜ハ十二

花のまゝいんふゑ、父、命、切、り、た、ふ、つ、れ、ぬ

と、斗、の、時、節、も、切、つ、て、世、は、め、た、故、れ、と、一、笑、い、れ、

口、白、心、の、一、葉、は、佳、者、れ、が、一、茶、の、出、い、れ、と、一、紙、を、七、つ、て、始、と、ぬ、書

尚、本、山、堂、山、火、り、う、も、一、茶、の、草、跡、を、多、く、採、集、せ、た、と、い、ふ、書

記、す、何、れ、も、と、す、ま、か、其、目、左、の、ゆ、い、

吾外の格事と云ひてを得る

○此も美術に於て二茶道界のありのありと云ふは、
破格に出づりて一法に本山豊定が長の間草を帯びた丈に、六十六歌
は、この幅が三空を充てたるは、此句も十中八九は、自ら白分のあり所を
特ニ風味を感するも、七ろろりた、青蓮星の肉を、画の添ひつた、
か多く又くれ、其高は、何と云ふ、いれろ、舟一の廣き、画に山人物、
物と云うて、長く、奴が、其、反、歎、ろ、俗も、自分、あると、や、新、つ、ある
所、又、嬉、ある、の、心、一、天、此、句、集、ろ、い、珍、ろ、の、本、也、教、點、出、し
お、此、何、と、漲、ろ、ろ、一、茶、の、傳、り、の、多、い、赤、保、の、云、茶、の、例、り、俗、民、を、
高、に、起、使、し、て、平、氣、と、ある、所、に、却、り、一、種、の、風味、ある、ん、左、に、改、訂、目、録
と、取、り、あ、り、(五月十日録)

種原製

本朝の海軍中校六式備門同
土うさ或よよ一茶主前之恩人たる味泉
注風贈六十正濕の品目の中より今更申
附願成此の贈呈刻
附録合々贈隆寶の榮に既り更く夫へ以下

- 一 林外春甫(蘭泉)筆 一茶百贈 一茶登
 - 二 長十道(白洲)
 - 三 御干(高貴)
 - 四 人(高貴)
 - 五 春日山(高貴)
 - 六 掛(高貴)
- 一茶登并野集風贈目録

一茶遺作撰集展觀目錄

一	村松春甫(鷗巢)筆 一茶肖像 一茶贊
二	外ヶ濱句色紙
三	鳴子畫贊
四	人物畫贊
五	春日山畫贊
六	牡丹の句
七	連衆自畫贊
八	山雀の句短冊
九	螢の句短冊
一〇	蛙の句短冊
一一	鳩・豊秋畫贊 双幅
一二	成美・一茶合筆妙義行人物畫贊
一三	松かけ畫贊
一四	夕涼句扇面
一五	ふるさと扇面
一六	年忘畫贊
一七	鶯畫贊
一八	名月五句
一九	蝶の句短冊
二〇	春の日句短冊
二一	白炭の句短冊
二二	閑座畫贊
二三	巢兆(英親)觀櫻圖 一茶贊
二四	朝顏畫贊
二五	旅の句二首
二六	信濃山畫贊
二七	蝶畫贊
二八	牡丹・誕佛・螢火三句
二九	春日山畫贊
三〇	扇・鹿句頌贊
三一	箱根山賽河原の句短冊
三二	老木の句短冊
三三	十三夜句短冊
三四	外ヶ濱の雁畫贊
三五	ふるさととの句
三六	善光寺門前・我が門・しめじ野句歌
三七	一茶俳諧寺之記合裝
三八	雨の月俳諧歌稿
三九	蘇生之文句
四〇	松陰の句
四一	踏白の句短冊
四二	新玉の句短冊
四三	夏籠の句短冊
四四	栗之六十賀人物畫贊
四五	姨捨山畫贊
四六	成美(隨齋)虛無僧・一茶贊
四七	山家の句短冊
四八	時鳥の句短冊
四九	山里の句短冊
五〇	藪の花畫贊
五一	句稿 十五首
五二	雪五尺畫贊
五三	わらび畫贊
五四	本他力畫贊
五五	功成身退の俳諧歌團扇
五六	明り窓の句短冊

一一三	閑座畫贊
一一二	巢兆(英親)觀櫻圖一茶贊
一一一	朝顏畫贊
一〇九	旅の句二首
一〇八	信濃山畫贊
一〇七	蝶畫贊
一〇六	牡丹・誕佛・螢火三句
一〇五	春日山畫贊
一〇四	扇鹿句頌贊
一〇三	箱根山賽河原の句短冊
一〇二	老木の句短冊
一〇一	十三夜句短冊
一〇〇	外ヶ濱の雁畫贊
九九	ふるさととの句
九八	善光寺門前・我が門・しめじ野句歌
九七	一茶俳諧寺之記合裝
九六	雨の月俳諧歌稿
九五	蘇生之文
九四	松陰の句
九三	踏白の句短冊
九二	新玉の句短冊
九一	夏籠の句短冊
九〇	栗之六十賀人物畫贊
八九	姨捨山畫贊
八八	成美(隨齋)虛無僧・一茶贊
八七	山家の句短冊
八六	時鳥の句短冊
八五	山里の句短冊
八四	藪の花畫贊
八三	句稿 十五首
八二	雪五尺畫贊
八一	わらび畫贊
八〇	本他力畫贊
七九	功成身退の俳諧歌團扇
七八	明り窓の句短冊
七七	秋風の句短冊
七六	桐材柱掛
七五	一茶所用黒柿頰杖門人文喬刻
七四	隨筆『志多良』
七三	連句集たねおろし稿本
七二	獨吟連句卷
七一	高津維平戲畫一茶贊六枚折 半双
七〇	俳諧傳書白砂人集一茶書寫
六九	俳人張交二枚折 半双
六八	
六七	
六六	
六五	

五月十五日 兩日

催主
 本山幽篁堂
 荻原安之助

前二卷の道里をたどる時小記に於て御向を映した所を美術誌
 誌に記し給ふべきなりと云ふことありて其の端を述べ

極悪人どころか

偉大な功績

「越後騒動」の小栗美作

高田藩第四代目城主松平光長（徳川家康の孫）の繼嗣問題が生んだ所謂「越後騒動」は劇にまで演ぜられ、この主役たる第一家老小栗美作は、主家乗取の極悪人とされ五代將軍綱吉の致命により餘りにも悲惨な最後を遂げ、その墓碑すら建立を許されなかつたが、事實は全く反対で小栗美作の高田藩における功績、わけても殖産興業に盡した偉大なる抱負、經綸こそ時局下再認識すべきものであると、中頸城郡八千浦村の歴史家渡邊慶一氏（現高田中學校囑託）は二十九日新潟放送局から小栗美作のため、その業績の一端を紹介することとなった。

元來越後騒動の根幹は高田城主松平光長が家康の孫として、暗黒な五代將軍綱吉の家督相続に反対したのち、將軍綱吉の激怒を受け、機曾あらば高田藩を取潰そうと企ててみた際、城主光長に嗣子なく一派の者は第一家老小栗美作が城主の妹を妻とし、いはゞ義兄弟の關係にあるので美作の子供を嗣子たらしめんと畫策し、これに對し萩田主馬を盟主とする一派は光長の弟を擁立、遂に越後騒動を惹起したものであるが、將軍綱吉は光長を伴塚の松山に監居せしめ、小栗美作等に切腹を命ずると共に、大悪人の如く宣傳せしめたもので、當時天下の將軍を怖れしめた小栗美作の政治的手腕は悪戯に傾すると思ふ。

「美作の殖産興業の第一に舉ぐべきものは高田市街の區劃整理であつた。藩城を中心に整然と建設された當時の高田は、正に北陸第一の都として繁榮したものである。次で現在の中江用水の根幹を爲す延長七里の大用水を完成、二萬六千七百七十七石の美田を造成した。之と共に保倉川を鑿へ荒川と合流せしめ、船運の便を計り、直江津港の築港にも着手し二百石船三・四十隻も同時に入港し得る施設を爲し、是亦北陸屈指の海の閘門として、股盛を極めたものである。このほか大湯新田（現在の太津村）の開墾により五千四百四十石の水田を得、鑛業開發として魚沼郡上田鎮山に着目、多量の銀・鐵等を採掘し、この鐵材を以て市外金谷村大貫に當時として破天荒の大鑛鑛造原まで設けてゐるが、何れを見ても頗る大事業で彼の卓越せる識見が窺はれる。然も面白いことは當時幕府の殖産興業の顧問として尊重されてゐた彼の河村瑞軒を高田に招請し、運河開鑿・採鑛業の基本設計に當らしめたこと、瑞軒の如き一世の事業家と往復したことも美作の偉大さを物語つてゐる。かゝる高田藩の大悪人をおたら主家乗取の悪人として僅かに中江用水組合が寺町善壽寺に「小栗美作殿の墓」と刻んで、さゝやかかな墓碑を建立した以外、何等彼の顯彰を講ずぬ高田市民の慎重に私ラジオに依り「美作の殖産興業」と題しお話しするが、これを機曾に願影運動にも微力を注ぎたいと思ふ。」

以下渡邊氏の研究談を續かう。ものがあつた。

陳阿敏

...

以下
3丁
白紙

蔣軍の戦力低下

一年間の作戦経過

蔣軍の戦力低下は、最近の諸作戦を見れば、その結果は年を追って大きくなつてゐるが、これは新政府の成立せる昭和十五年において前年に増し更に積極的な攻撃を行ふべきであるにかゝらず、昨年の戦力低下は、北支において共産軍が反撃したのみであつた、これは重慶政権の勢力全く失墜し、抗戦し得ず無力を曝してゐるに過ぎない。

今二、に昭和十四年と十五年の戦力を比較してみれば、この重慶失墜を雄辯に示してゐる、十四年にあつては排撃、陸軍兵以上主なる戦果の概数であるが、これを事變當時にまで及ぼせば、當時二百萬といはれた支那軍は、この三年八月に約五百萬の増強（中二百萬戦死）を日本軍から奪はれてゐる、なほ現在二百四十ヶ師の軍隊ありと認計してゐるがその實力は事變當初の五分の一に低下し、兵力は五、六十師に過ぎないしかも戦力の素質は粗悪、裝備も申論的のもので、到底一國の軍隊としてはその資格なきものゝやうである。

と重慶アメリカ新聞記者からそのドン底振りを述べてゐる。

新たな中原作戦の結果は、重慶開始當初から絶大に及んでゐるが、この結果が蔣に致命傷を與へることは勿論であり、汪政府育成強化の積極性と相まつて重慶軍の段階は急速度に崩壊してゐると観るべきであらう。

は昨年四月から十月に、わたつて戦線五十次にも及ぶ重慶空襲が行はれたことである。

これ等最近の諸作戦を見ると、その結果は年を追って大きくなつてゐるが、これは新政府の成立せる昭和十五年において前年に増し更に積極的な攻撃を行ふべきであるにかゝらず、昨年の戦力低下は、北支において共産軍が反撃したのみであつた、これは重慶政権の勢力全く失墜し、抗戦し得ず無力を曝してゐるに過ぎない。

今二、に昭和十四年と十五年の戦力を比較してみれば、この重慶失墜を雄辯に示してゐる、十四年にあつては排撃、陸軍兵以上主なる戦果の概数であるが、これを事變當時にまで及ぼせば、當時二百萬といはれた支那軍は、この三年八月に約五百萬の増強（中二百萬戦死）を日本軍から奪はれてゐる、なほ現在二百四十ヶ師の軍隊ありと認計してゐるがその實力は事變當初の五分の一に低下し、兵力は五、六十師に過ぎないしかも戦力の素質は粗悪、裝備も申論的のもので、到底一國の軍隊としてはその資格なきものゝやうである。

と重慶アメリカ新聞記者からそのドン底振りを述べてゐる。

新たな中原作戦の結果は、重慶開始當初から絶大に及んでゐるが、この結果が蔣に致命傷を與へることは勿論であり、汪政府育成強化の積極性と相まつて重慶軍の段階は急速度に崩壊してゐると観るべきであらう。

- 一、豫南作戦（二月一二月）
 二、南昌西南作戦（三月）
 三、蘇北作戦（二月一三月）
 四、雷州半島方面上陸作戦（三月）
 五、南昌西南作戦（三月）
 六、大洪山脈作戦（四月）
 七、諸既作戦（四月一五月）
 八、中原作戦（五月一）
 九、中東作戦（五月一）
 十、中東作戦（五月一）
- 一、豫南作戦（四月一五月）
 二、宜昌作戦（五月一七月）
 三、宜昌作戦（五月一七月）
 四、良口作戦（五月一六月）
 五、佛印進駐作戦（九月一十月）
 六、江南作戦（十月）
 七、中東作戦（十月一十一月）
 八、中東作戦（十月一十一月）
 九、中東作戦（十月一十一月）
 十、中東作戦（十月一十一月）

孫 文

仙覺本系統以外の古鈔本、仙覺本の古鈔本等によつて勘へなければならぬ。これ蓋、萬葉集の基礎的研究であるのである。

しかし、予が多年搜索もし研究もした結果、たしかめ得たところによると、平安朝時代の書寫にかかる萬葉集の古鈔本で、半卷以上の形を具へたものの現存してゐるのは、桂本藍紙本、金澤本、天治本、元暦校本である。

次に鎌倉時代の書寫にかかる萬葉古鈔本の現存してゐるのは、嘉暦傳本本、傳王生隆祐書寫本、西本願寺舊藏本、神田本の四種である。しかして神田本は、卷一から十までは鎌倉時代末、卷十一以下は室町時代の書寫と推せられる。

扱、今度國寶に指定せられ東京帝室博物館に陳列されたる嘉暦傳本本萬葉集は、嘉暦三年三月、金藏寺北院大光坊阿闍梨慶俊の傳承の奥書があるので、しか名づける。縦八寸六分、横五寸八分、用紙鳥の子の胡蝶装、卷十一の全巻一帖で中山家の所蔵である。

予がはじめて中山家を訪うて、その所蔵に係る類聚古集を見るを得たのは、同家が日比谷にあつた頃であつた。青山に移轉後、烏丸家から傳來の長持に收められた全部を見ること

を得たが、その中で最も注意せられたのは、古筆手鑑、乾元書寫の八雲抄の零卷、及び小田原陣中に於いて細川幽齋の書寫した歌枕名寄等であつたが、中にも最も驚喜したのは、萬葉集の古鈔本一帖、すなはちこの本を見出だしたことであつた。

この本は、嘉暦年間に、既に少くとも二回の傳承を経てゐるので、書寫はそれよりも古いことは勿論である。書風より推すに、鎌倉時代初期のものなるべく、この時代に入つてからの現存せる最初のものであらうと考へられる。

この本の訓は、もとより仙覺本の訓でなく、類聚古集、古葉略類聚鈔の訓に近く、更に上つて拾遺集に採つた萬葉の歌と屢一致してゐる。比較的よく古風を傳へた上に、卷十一は、從來類聚の書によつて仙覺校訂以前の一端をうかがひ得るに過ぎなかつたに、此の本出でて古來の眞面目を明らかにし得たところが多い。

今この本によつて、流布本を訂正し得べき二三の例を擧げよう。

寛永本十六丁オ
 家人者路毛四美三荷雖來吾待妹之使不來鴨



アテネ三千年の興亡

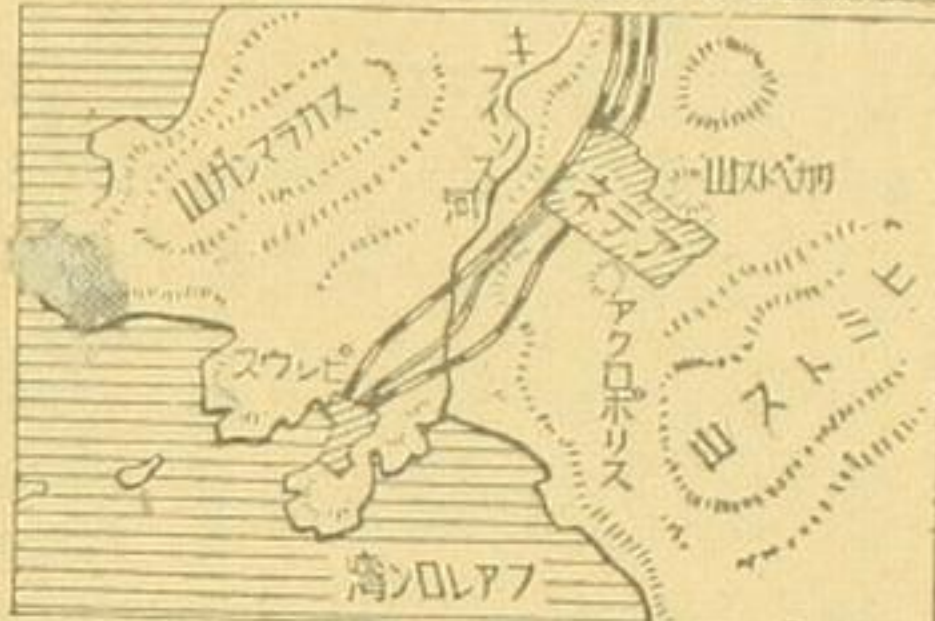
古代ギリシア文化を誇るアテネ市の古きギリシアの文明はアクロポリスの断壁に、彫刻に、文化の断片を今日に傳へて居る。しかし文化の断片は主眼を失うべきにはならぬ。アテネ興亡三千年の歴史を拾つて見よう。

▲アテネ市は西暦紀元前一六四三年エジプトの植民地として誕生したと傳へられて居る

▲ミケネ時代の末期イオニア人が移住し、僭政によればテセウス王がアッテカの十二部族をアテネの威力の下に統合したといふ

▲紀元前六、七世紀の頃は貴族平民の闘争はげしく、ギリシア七賢人の一人ソロン王の導きより貴族的共和政体の都市として確立されて居つた(前五九四年)

▲ペルシアの侵略に對してはアテネを盟主としてギリシアの諸都市は奮起してマラトンにこれを破り(前四九一年)短い期間の手和時代にテミストクレスとペルシアに臨める際に、海軍上ビレウ



ス港とアテネを結ぶ城壁を築造した

紀元前四八〇年サラミスの海戦翌年プラテアの陸戦にペルシア軍を再び撃退して次の三千年間にアテネ市は更に興隆した

▲紀元前四四四年から四二九年に到るペリクレス時代がアテネの最盛期で、今に傳る壯麗なアクロポリス宮殿が建設され、ギリシア文化が花を咲いた

その後ギリシアの二大都市のアテネとスパルタの間に争ひ起りペロポネズス戦争となりアテネは敗れてギリシアにおける政治的支配力を失つた。スパルタもレウクトラの戦にテーベのエパミノンダスに破られ勢力を失ひ、ギリシアは前衛の一途を辿り、マセドニアのフィリッポとその子アレキサンダー大王により攻略された(前三三八年)

▲紀元後においてはマセドニアの分断で一四八年にアテネはローマの属領となつた。ローマ帝國の分断後東ローマ帝國に領土されたがその後拜占庭に墜され、十三世紀のはじめにアテネは十字軍に

大陸の話題

小學校のストライキ

物價高によるストライキは、たうとう小學校にまで波及した。佛蘭西馬路路にある私立小學校ではかねて教員が三千ドルの時手當および米半當を要求して、二十五日になつて遂に教員が退職を断りつげ生徒を加害

り得られたが後ブルボン家に譲られるに到つた

▲一三七〇年フロレンスのライネリネ・アッキジエオリがアテネ市を會收しその子孫がアテネを治つて来たが、一四五九年アテネはトルコのモハメッド二世に攻められ、一八二三年まで約四百年間トルコ領となる

▲その後ギリシアに大きな獨立運動起り、一八三三年ババリアのオットー公を迎へて國王となし、アテネを首府としてギリシアは二千年を経て漸く獨立國となつた

その後ランマーク系、ドイツ系英國系の王朝が獨立されたり共和國になつたりして變遷を遂げたが、首都アテネの文化は後述

何の根據もない

ここで、これでは異常不良となり、お乳の買や出が恐ろしくなり、母親となつたら、好きさのりやめて、何となくたべられる小魚や干、喉、海草、人参、豚骨米などを、やはらかに煮てたべます。都賀の母親は朝晩不中から湯桶になり、乳がでなくなることもあるが、できるだけよく飲ませるやうに、母親の注意が大切で、母親の主眼も二週間は休んでください。赤ちゃんと乳をはいたり、便の色が黒かつたりすると母乳が不足しているかと考へ、母乳を検査しなくちやとて母乳を止め、牛乳をやつて消化不良にすることが多いが、乳をはいくのはお乳をのみこ

あるもので

組合せや整理

婦人國民服

望受るす對に

わたくしは小さいときから、すつと洋服をきて育つてきました。洋服だけではどうも満足できないで、冬の夜などは家で着るものをするときは和服を着、また、自動車に乗るときは半ズボン、大掃除の時はスキーズボンといふふうになんでも、そこにあつた



を自由に使うてみるといふことを水年やつてみますが、このやうに組合せると偶然の形がそこに生れて、「これが洋服」の「これが和服」といふ區別はほとんどないやうになつてきます。そこで、婦人服の改良を考へる場合、現在あるものゝ組合せを、いさゝかへて見るといふことも一つの面白い方法ではないかと想ひます。それから、いふ二つは、今まであるものゝ整理をするといふこと

私案の二

この私案は二種の婦人服といひたいです。和服の改良や支那服、朝鮮服などの服種に属して、それが式服に適用するといつたやうな

ある程度は、毛織物を用ひて材料作ればテーラード・スイートや外出や勤勞用に適した地大縮減ならびに、その品でつくればツイード・スーツとして訪問用その他一レスの用途と問はず。すなはち、あらゆる國の人が見ても奇異な感しを覚えず、わが國衣服の特色もとりいれてあり、衣の前はもちろん、スカ



一〇〇〇 家庭の時間「大陸を視て」

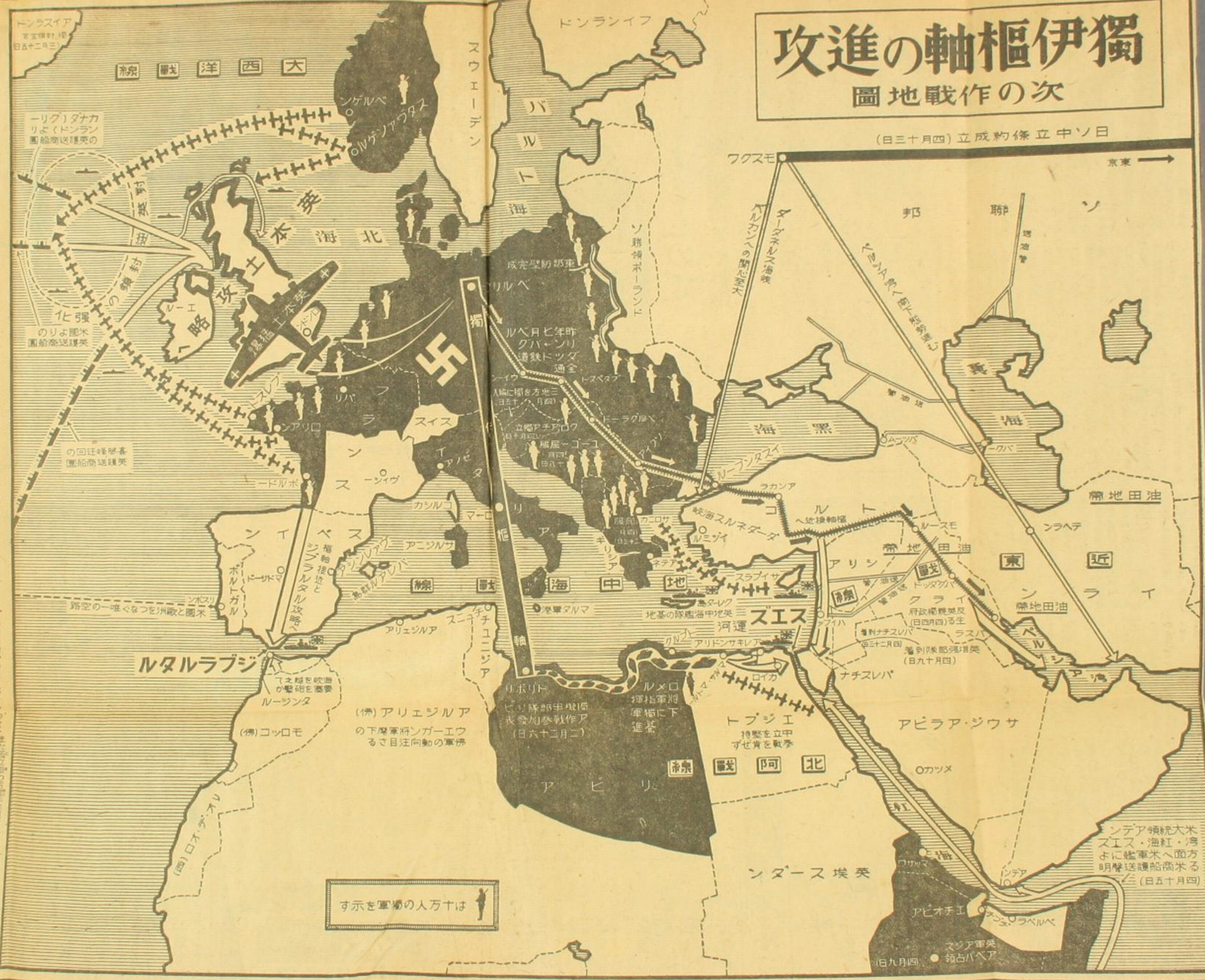
六〇〇 少年の時間「夜」

七二〇 政府の時間「新政府」

攻進の軸樞伊獨

圖地戰作の次

(日三十月四)立成約條立中ソ日



打倒英國の四戦線

北西方面の戦線は、英軍の防線が崩壊し、ドイツ軍が北進中である。北東方面の戦線は、ドイツ軍がフランスを突破し、パリを占領した。南西方面の戦線は、ドイツ軍がスペインに進軍し、バスク地方を占領した。南東方面の戦線は、ドイツ軍がイタリアに進軍し、ローマを占領した。

地中海の戦線は、ドイツ軍がギリシャを突破し、バルカン半島に進軍した。北アフリカの戦線は、ドイツ軍がリビアに進軍し、トリポリを占領した。中東の戦線は、ドイツ軍がシリアに進軍し、大シリアを占領した。

北アフリカの戦線は、ドイツ軍がエジプトに進軍し、カイロを目指している。中東の戦線は、ドイツ軍がペルシアに進軍し、バグダッドを目指している。南西方面の戦線は、ドイツ軍がポルトガルに進軍し、リスボンを目指している。

化粧なら四一療法

アスタフィール

三十分入田五十種全輸入

すきを軍場の人万十は

ソ連軍が北アフリカに進軍し、カイロを目指している。中東の戦線は、ドイツ軍がペルシアに進軍し、バグダッドを目指している。

10
15
20
25
30
35
40

理想は全機甲陸軍

戦車の空輸發達せん

米首腦の對協

獨機空襲の被擧げ

河村中將

河村中將 内閣方面から出て行つて、數十箇
今度日ソ中立條 所やつては、協約國に對し
約に關して外 彼の懸念を挫くことができる。
と滿洲との不 これは飛行機ではなかなか困難な
可憐が言はれ 仕事ですから、機甲部隊の、確實
きしたが、外 によれる、地形の許す可成りが
勢りはロシア るといつたもうな軍隊の用法とし
としては非常 して、これは期待しなければなら
に重要視して 重た問題ぢやないかと思ひます。
外對に對して 本が手をつけた
ら、ロシアは全 部を擧げて日本
と戦ふといふこ とがスターリン
がいつてをりま す。何故かとい
ふと、つまり協約國の、ウラジオオに
到着する鉄道、バイカル湖を中心
として、何十キロメートルとい
ふ距離が、對の國境に關聯してゐ
るのである。それを懸念と同時に、

米首腦の對協

山田少將 軍備の理想として
はいはゆる全機甲時代、全機甲全
體化の陸軍を作るやうに努める
だらうと思ひますが、大きな軍備
を擁する現況においては、なかな
かそれは強かに進めようと思ひ
ます。その海軍部といたしまして
は、やはり先制の利を占める部
隊、最後の止めを刺す部隊、こゝ
に重点をおいてやるならうと思
ふ。これからの陸上の戦といふ

獨機空襲の被擧げ

獨機空襲の被擧げ
田中少將 獨機空襲の被擧げ
獨機空襲の被擧げ
獨機空襲の被擧げ

機甲軍の準備

⑨

機甲軍の準備
機甲軍の準備
機甲軍の準備

機甲軍の準備
機甲軍の準備
機甲軍の準備

機甲軍の準備
機甲軍の準備
機甲軍の準備

機甲軍の準備
機甲軍の準備
機甲軍の準備

號三十七百五千一萬二第



伊希軍協議會
伊希軍協議會
伊希軍協議會

伊果
伊果
伊果

地 背 後 を 衝 け

地 背 後 を 衝 け
地 背 後 を 衝 け
地 背 後 を 衝 け

地 背 後 を 衝 け
地 背 後 を 衝 け
地 背 後 を 衝 け

機甲軍備の進歩

理想は全機甲陸軍

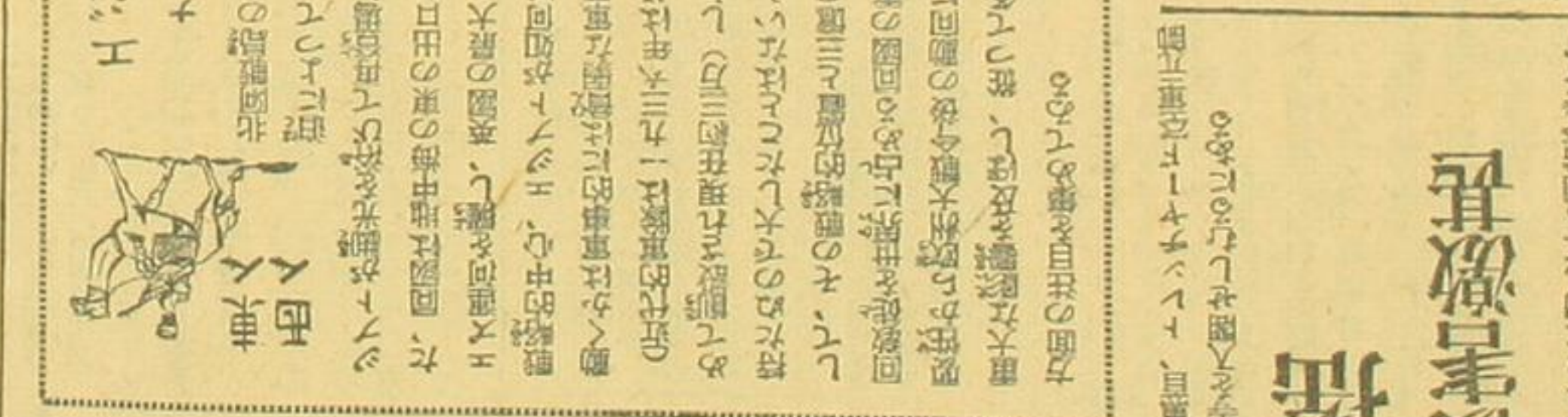
戦車の空輸發達せん

河村中將 内地方面から出て行つて、數十回
今度日本が勝つて、開戦初頭におい
て彼の戦車を撃つことができない。
これは飛行機ではなかなか飛んで
可成り重たい。戦車は、機械の
可成り重たい。戦車は、機械の
可成り重たい。戦車は、機械の

米兵

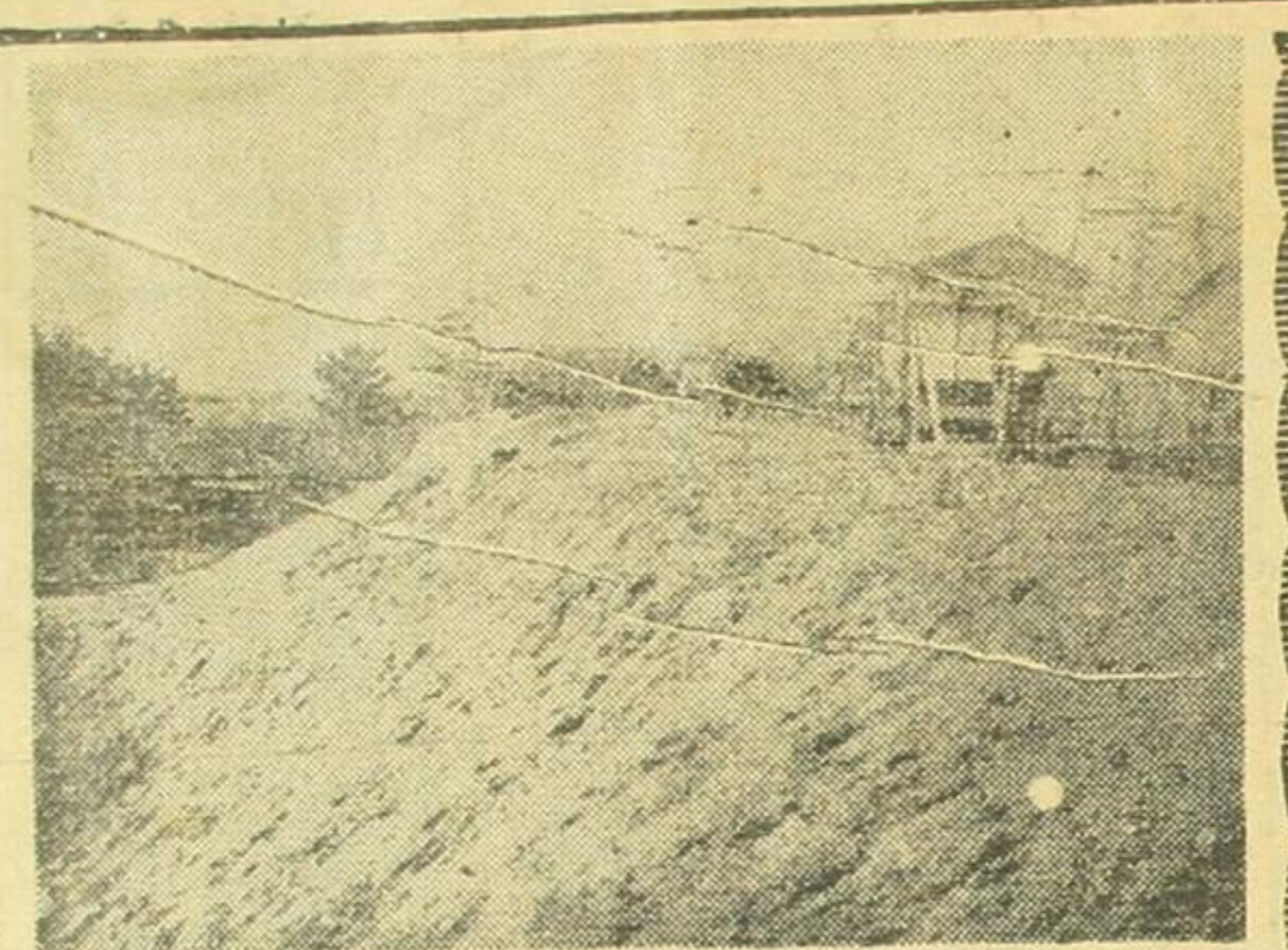
米兵

この写真は、米兵の行軍の様子を
写したものである。米兵は、
歩兵、騎兵、戦車兵、飛行機兵
など、多岐にわたる部隊で構成
されている。彼らは、
遠くまで進軍し、
各地を占領して



米兵の行軍の様子

米兵の行軍の様子



第二萬五千七百七十三號

元新潟の在り所

放送局や師範学校の附近
ひどこかつた飛砂の害

おかし、しかしそれは現在の
地形から見ておかし、現在の
地形から見ておかし、現在の
地形から見ておかし、現在の



新潟懐古帳

即ち一番最初が古川町、今の
女学校下手に移つた、こゝが
飛砂のため居れず引揚げ春日
として福前町の中宇南山

（昭和二十一年）

米穀関係
米穀関係
米穀関係

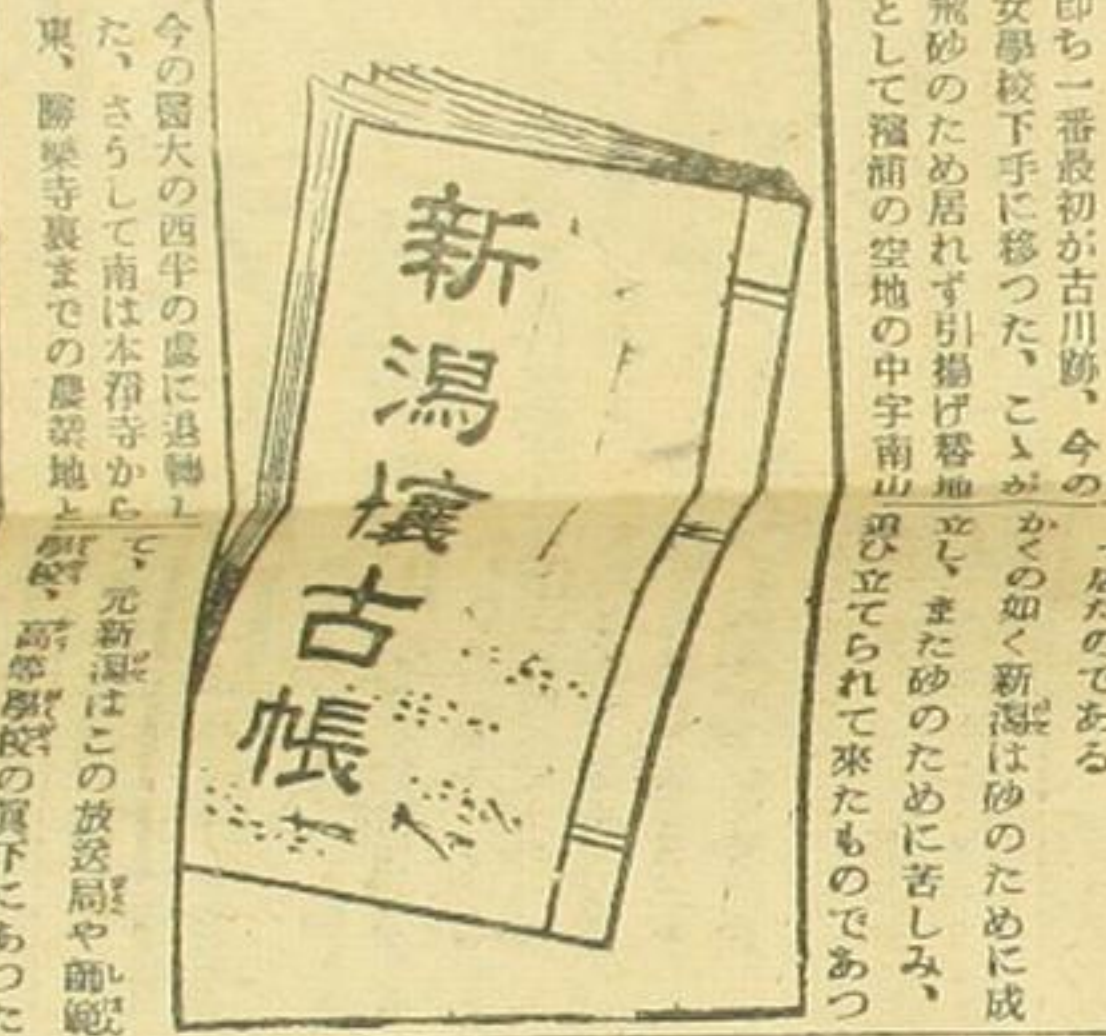
海陸軍機の襲撃
海陸軍機の襲撃
海陸軍機の襲撃

米穀関係
海陸軍機の襲撃
米穀関係
海陸軍機の襲撃

元新潟の在り所

放送局や師範学校の附近 ひとどかつた飛砂の害

と云うので、そんなら一休元の
新潟のあと、いふのは何處だ
つたかといふことは、私は現在
の學校町二番町邊から舊日和
山の間に一直線にあつたと想
像する新潟中學校前あたり現
在關原田町の中學校前通り古
信濃川橋邊から新潟高等女學
校、岡本小路、水道町放送局
の山を越えて神宮裏の低地に
かけて一帯の低地が元新潟の
跡と想像する



即ち一番最初が古川跡、今の
女學校下手に移つた、こゝが、
飛砂のため居れず引揚げ替地立
として溜泊の空地の中宇南山
に立てられて来たものであつ
たのである

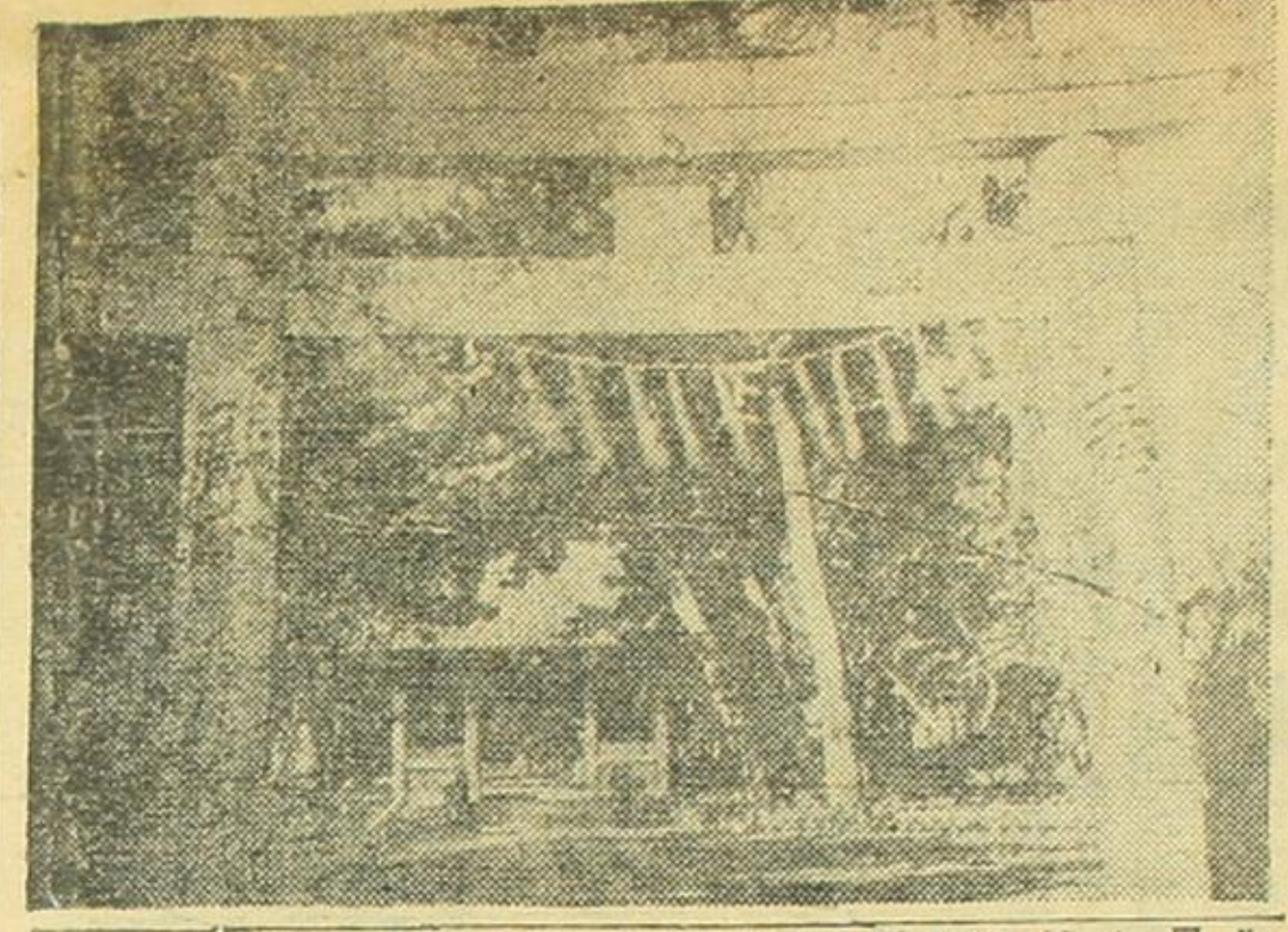
ものである、實に飛砂の被害は
甚だしいものである、その被害は
新潟の西方面一帯に及んだもの
であるが、特に寄居町方面が最
も甚だしく町へへと押し込ま
れた砂のち、町へ最も近くまで
押し寄せて来たのは、大の處であつ
て、その南端は醫學町に及び、僅
かに一町位で西堀通りとなる
それから新津氏邸の坂、坪田
牛肉店の處から超風寺墓地迄
の間は半町ともない程砂山が
町に接近してきてゐる、ここ
から又つと引込んで醫所通
り、南堀通りは神宮附近、行形亭
あたりが低い砂山で、それか
ら又つと下手西堀通十二番
町、古町通十三番町邊へ行く
と町の一部分が相當高くなつ
てゐる、そこで町に最も近い
砂山は學校町岡本小路邊、大
東、勝樂寺裏までの農地と、
高等學校の裏下にあつた

砂山の變化はこの程度にして置
ておくやうである

東、西、南、北、高、三時間余に亘つて附近海上を漂まの...

新潟城は何處に

「向き」を變へた白山神社
現在のものは正保四年以來



先づ天正九年上杉謙信三位中納言景勝の領した事は事實で、北越太平記に天正十三年四月、新潟城の城を攻めたといふ事がある、伊佐早先生の本を見ても同書は餘り信用してをらんから判然しないが、兎に角あつた事は事實である、さうするとその新潟城は何處だつたらう、先づ元新潟は何處だらうといふ前にこれを調べねばならん、白山島といふと、今の白山公園の地域のみと思ふものがあるがさうでない、これは毎年の川缺けに小さくなつたもので、今の市役所の前のすべり臺の處には百本杭があつて、出水時には揺れて居たのを私は知つてゐる。

此白山島は相當大きいもので地圖によると長さ二十一町四十間といふから關原大川前園九郎あたりまで及んでゐたもので城は堅固にするため島から獨立させてあつて今したら綜合グラウンドの少上手、今さかんに埋立てを つてゐる邊ではあるまいか、白山城は港の城ともいつたもので、永正年中長尾信濃守爲母長男彌三郎晴景、謙信公の兄に成して居て、天文の七戌年日山に歸つたとある、それから弘治三年謙信の一族新發田部左衛門が在城したなど書いてあるし、新潟城の落成したのが天文十三年十一月二十一日夜である。

この十六年には蒲田源右衛門が代つて城主となつたといふことで一説には新潟城け今の裁判所の處であるといふが、私はさう思はない、また一説には現在の縣廳の處だなどといふものもあるがそれも信じない、新縣廳の處全部、あれは若白山島なのであつて今縣廳と公園の間に堀があるから全然別のやうに思ふが、あの堀はあとから掘つたもので、元け地盤きなのである。

さうして白山公園正面入口の處の堀は以前は學校町に向つてあつて川尻は西山旅館の邊まであつたといふ説もあるが、それは白山神社の裏にあり、今では見えず、昔は砂山が低かつたから見えたかも知れない、白山神社は昔から今の通りかといふと決してさうではない、あれは元は西向きで現在縣廳の西端、西山旅館邊りにあつたものでそれを元新潟即ち蒲田村を島村、現在の新潟の方へ移轉させることになつたに依りて先づ第一番に白山神社

松の園の拜

松の園の拜

松の園の拜



白山三寺作觀音相
山人吉堂朝又信若
二流浦人の信若
萬阿以房



石清筆 蓮 圖 三浦碌郎氏藏

城は何處に

「向き」を變へた白山神社
現在ののは正保四年以來

先づ天正九年上杉謙三が中納言景勝の領した事は事實で、北越太平記に天正十三年四月、新潟城、港の城を攻めたといふ事がある、伊佐早先生の本を見ると同書は餘り信用してをらんから判然しないが、兎に角あつた事は事實である、さうするとその新潟城は何處だつたらう、先づ元新潟は何處だらうといふ前にこれを調べねばならん、白山島といふと、今の白山公園の地城のみと思ふものがあるがさうでない、これは毎年の川缺けに小さくなつたもので、今の市役所の前のすべり臺の處には百本杭があつて、出水時には揺れて居たのを私に知つてゐる

此白山島は相當大きいもので地圖によると長さ二十一町四十間といふから彌生大川前園九郎あたりまで及んでゐるもので城は堅固にするため、島から獨立させてあつて今にしては綜合グラウンドの少し上手、今さかんに埋立てをやつてゐる邊ではあるまいか

白山城は港の城ともいつたもので、永正年中長尾信濃守景景の長男彌三郎晴景、謙信公の兄が在城して居て、天文の七戌年春日山に歸つたとある、それから弘治三巳年謙信の一族新發田刑部左衛門が在城したと書いてあるし、新潟城の落成したのは天文十三年十一月二十一日夜である

この十六年には彌田源右衛門が代つて城主となつたといふことので一説には新潟城は今の裁判所の處であるといふが、私はさう思はない、また一説には現在の縣廳の處だといふいふものもあるがそれも信じない、新縣廳の處全部、あれは昔白山島なのであつて今縣廳と公園の間に堤があるから全然別のやうに思ふが、あの堤はあとから掘つたもので、元は地味きなのである

さうして白山公園正面入口の處の堀は以前は縣廳町に向つてあつて川尻は西山麓の邊まであつたといふ事である、無論今では見えやうはないが、昔は砂山が低かつたから見えたかも知れない、白山神社は昔から今の通りかといふと決してさうではない、あれは元は西向きで現在縣廳の西端、西山麓邊りにあつたものでそれを元新潟即ち彌田村を島村、現在の新潟の方へ移轉させることになつたといふ事、私にそれを信する、信濃川の

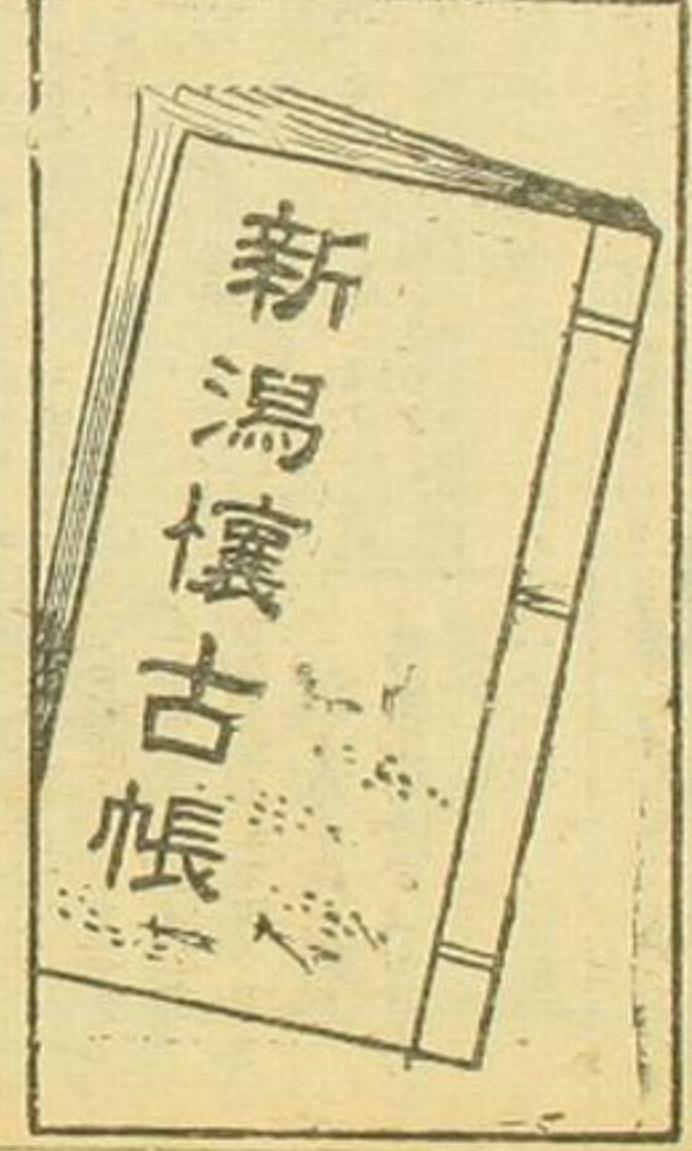
つたといふ事である、白山島は元は非常に大きいものであつたが年々の出水や水勢の關係で段々狭れてしまひ、舊公園地城だけが僅かに残つたのである、現在彌田村の老松は白山島千本松原の中のもので、大昔は松が繁茂してゐて海からの松原が見えたといふことを書いてゐる

クルリと向きを變へて正保四年六月十八日現在の處へ移轉改築したものである

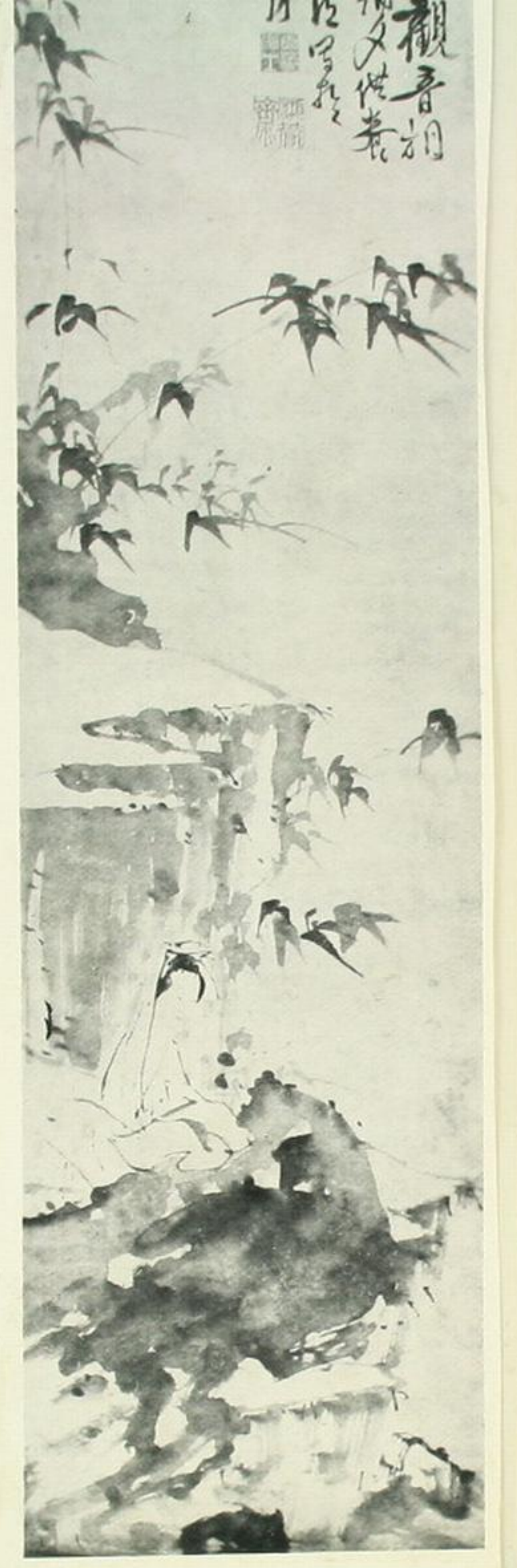
正保は享保元年に修理し、拜殿は延享四年に改築したといふのであるから随分古い社殿である、拜殿の作りがお寺臭いのは長い間十一面觀世音が本地佛になつてゐたからで、寶龜院が別當となつてゐて、三月十二日から十

流れの中に、白山島に寄居局が出来た、元新潟にとつてはいはば眼の上のユブだ、これがために元新潟の信濃川岸は段々にあせて來て十分に船着しなくなつた

何等かの方法を講じなければならぬやうになつた、時に元和二年七月二十八日堀丹後守直寄侯が長岡の城主となり新潟を領することになつた、するとこの直寄侯は何らかのこの新潟を發展させたいと色々畫策され彌田村のものを島村へ移轉させるといふ計畫を樹てられたが元和四年三月二



元和四年から天保十四年幕府の公領となるまでの二百二十余年であつた、實に堀、牧野兩侯は新潟の大恩人である、元新潟の町民が全部現新潟へ移つて了つたのは延寶の末年ださうで、堀氏の入關から明暦まで四十二年は延寶の全く移り終つたまで二十年であるから移轉を計畫してから六十二年目に完了したことになる（語る人 浦野左右大氏）（寫眞は明治初年撮影になる白山神社未だ神佛、混淆當時の名残りである仁王門が見える）



石濤筆 蓮 圖 三浦條郎氏藏

